

平成27年度 白河総合支援学校岡崎本校 学校評価アンケート集計結果

教職員	回答 35名/35名 100%			
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 生徒は自己目標にむかって学習に取り組んでいる	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%
2. 生徒は満足感や達成感をもち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	14.3%	74.3%	11.4%	0.0%
3. 生徒は満足感や達成感をもち、教科の学習に取り組んでいる	5.7%	40.0%	45.7%	8.6%
4. 生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%
5. 生徒に働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきている	14.7%	67.6%	17.6%	0.0%
6. 生徒は自分自身のことを肯定的にとらえている	8.8%	41.2%	50.0%	0.0%
7. 生徒の可能性を広げる活動を設定している	20.6%	64.7%	14.7%	0.0%
8. 生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	22.9%	68.6%	8.6%	0.0%
9. 生徒のことが理解できている	8.6%	71.4%	20.0%	0.0%
10. 生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導に当たっている	25.7%	65.7%	8.6%	0.0%
11. 生徒は友達の考え方や個性を尊重し、認め合っている	8.8%	52.9%	32.4%	5.9%
12. キャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	11.4%	60.0%	25.7%	2.9%
13. 生徒は自分から積極的に挨拶をしている	5.7%	22.9%	71.4%	0.0%
14. 生徒の得意なことを把握している	8.6%	74.3%	14.3%	2.9%
15. 生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	6.1%	42.4%	42.4%	9.1%
16. 生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	20.6%	47.1%	29.4%	2.9%
17. 生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	2.9%	51.4%	40.0%	5.7%
18. 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	17.6%	47.1%	35.3%	0.0%
19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	26.5%	55.9%	17.6%	0.0%
20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	20.6%	61.8%	17.6%	0.0%
21. 休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	17.1%	65.7%	14.3%	2.9%
22. 生徒や保護者に短期目標や評価について、適切に伝えている	20.6%	58.8%	17.6%	2.9%
23. 生徒や保護者からの個別の相談に適切に対応している	25.0%	59.4%	12.5%	3.1%
24. 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	11.8%	73.5%	11.8%	2.9%
25. 保護者に、参観・懇談・学習会等に積極的に参加するように促している	24.2%	45.5%	24.2%	6.1%

【教職員】

- ①4から、教職員が職場実習の指導や支援に力を入れ達成感を感じていることが分かる
- ②ほとんどの項目で「大体そう思う」という回答が多く、各項目についてやりきっているとまではいえない状況であることがうかがえる
- ③3・6・13・17から、生徒の学習や生活について教職員の評価が低い様子がうかがえる
- ④6で生徒の自己肯定感の低さを教職員も感じ取っていることが分かる
- ⑤15・18から、生徒の家庭生活に関する指導が学校で十分に行えていないと考える教職員が多いことがうかがえる

保護者	回答 76名/101名 75%			
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	31.5%	49.3%	13.7%	5.5%
2. 子どもは専門教科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	25.7%	54.1%	17.6%	2.7%
3. 子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	20.0%	49.3%	26.7%	4.0%
4. 子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	27.4%	57.5%	11.0%	4.1%
5. 子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	21.6%	54.1%	17.6%	6.8%
6. 子どもは自分自身のことを肯定的にとらえている	16.2%	45.9%	24.3%	13.5%
7. 子どもには様々な可能性があると思う	59.5%	36.5%	2.7%	1.4%
8. 子どもには一生懸命になれる活動がある	38.4%	46.6%	12.3%	2.7%
9. 子どものことが理解できている	13.7%	65.8%	17.8%	2.7%
10. 子どもの自己肯定感が高まっている	17.6%	44.6%	29.7%	8.1%
11. 子どもは友達に対して思いやりをもち、認め合っている	34.7%	53.3%	9.3%	2.7%
12. 子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がなされている	31.1%	54.1%	12.2%	2.7%
13. 子どもは自分から積極的に挨拶をしている	27.0%	43.2%	25.7%	4.1%
14. 子どもは自分の得意なことに気づいている	32.0%	36.0%	29.3%	2.7%
15. 子どもは朝ごはんをきちんと食べている	50.7%	29.3%	9.3%	10.7%
16. 子どもには日常的に清潔にすることを促している	48.6%	40.3%	11.1%	0.0%
17. 子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	41.3%	42.7%	10.7%	5.3%
18. 子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	34.7%	38.7%	17.3%	9.3%
19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	23.9%	56.3%	15.5%	4.2%
20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	22.7%	50.7%	18.7%	8.0%
21. 子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	37.0%	41.1%	16.4%	5.5%
22. 短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	33.8%	47.3%	14.9%	4.1%
23. 個別相談について、学校は保護者に適切に対応している	42.7%	46.7%	9.3%	1.3%
24. 保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	35.1%	58.1%	4.1%	2.7%
25. 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	28.0%	30.7%	32.0%	9.3%

【保護者】

- ①多くの項目で保護者は7割から9割が肯定的な回答をしてることから、学校の教育方針や教育実践に対して概ね肯定的に評価していることが分かる
- ②から、9割5分の保護者が子供の可能性を高く評価していることが分かる
- ③10で生徒の自己肯定感については、否定的な回答が4割となっており生徒の自己肯定感の低さを保護者も感じ取っている様子がよみとれる
- ④25から、4割の保護者が積極的に学校行事への参加できていないという意識を持っていることが分かる

生徒	回答 98名/101名 97%			
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 今、現在の自分の目標がわかっている	46.4%	42.3%	6.2%	5.2%
2. 目標に向かって学習に取り組んでいる	29.9%	56.7%	8.2%	5.2%
3. 専門教科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	33.0%	39.2%	20.6%	7.2%
4. 教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	24.0%	35.4%	27.1%	13.5%
5. 職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	40.2%	37.1%	15.5%	7.2%
6. 働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	21.4%	50.0%	21.4%	7.1%
7. 自分のことが好きである	15.6%	26.0%	26.0%	32.3%
8. 自分にはできることがたくさんある	14.6%	35.4%	31.3%	18.8%
9. 自分には一生懸命に取り組んでいる活動がある	34.4%	26.0%	30.2%	9.4%
10. 自分のことを理解してくれる人がいる	28.4%	33.7%	26.3%	11.6%
11. 自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている	15.8%	26.3%	27.4%	30.5%
12. 友達の考え方や個性を理解し、認め合うことができる	22.7%	45.4%	24.7%	7.2%
13. 先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	22.6%	37.6%	23.7%	16.1%
14. 自分から元気よく挨拶ができる	33.0%	34.0%	25.8%	7.2%
15. 自分の得意なことがよくわかっている	35.4%	32.3%	27.1%	5.2%
16. 朝ご飯をきちんと食べている	46.4%	18.6%	16.5%	18.6%
17. 清潔にすることを心がけている(例えは、入浴、着替え、汗をふくなど)	58.8%	30.9%	5.2%	5.2%
18. 学校のきまりや約束を守っている	29.8%	40.4%	23.4%	6.4%
19. 家庭で決まった役割(例えは、お手伝い)があり、実行している	35.1%	32.0%	18.6%	14.4%
20. 企業の協力があり、職場実習などができることに感謝している	54.6%	35.1%	6.2%	4.1%
21. 地域の協力があり、地域との活動ができることに感謝している	37.5%	36.5%	15.6%	10.4%
22. 休日は趣味やスポーツ、サークル活動などにとりくんでいる	29.8%	23.4%	17.0%	29.8%

【生徒】

- ①各項目の回答についてみると1・2でほぼ9割の生徒が肯定的な評価をしており、目標を持つ専門の授業や職場実習行っていることがうかがえる
- ②17から、9割の生徒が清潔にすることを意識していることがうかがえる
- ③20・21から、企業や地域の方の協力に対して多くの生徒が感謝の気持ちを持つことが分かる
- ④学習内容の評価については教科・専門教科・職場実習の傾向が読み取れる
- ⑤7・8・11から、自己肯定感については否定的な回答が多く、自分に自信が持てない生徒の割合が高いことがうかがえる
- ⑥13から、かなりの生徒が学習の目的について十分理解できていないことがうかがえる
- ⑦18から、学校の決まりについてはほぼ7割の生徒が守っているという意識を持っていることが分かる
- ⑧22から、余暇の利用については半数程度の生徒が取組をしていない現状が分かる

【3者のまとめ】

- ①生徒1~6の項目については3者の回答傾向に大きな違いは見られないが、4の教科学習に関しては肯定的な回答率が低くなっている、教職員では専門教科や職場実習に比べて教科学習での生徒の取組や達成感が低いというとらえ方が顕著であることがわかる
- ②生徒7・11では生徒の自己肯定感については他の項目に比べても否定的な回答が多く保護者・教職員もそれを感じ取っていることが分かる、教職員は自己肯定感を高めるための取組を意識して行っている
- ③教職員12でキャリアプランに基づく指導や支援を行っていることが分かるが、4割の生徒は十分には理解できていないことが読み取れる、今後学習の目的をわかりやすく生徒に伝えることが教職員の課題といえる
- ④生徒9で一生懸命取り組んでいる活動について、教職員・保護者が思っているよりも生徒が一生懸命取り組んでいる活動が少ないことが分かる
- ⑤生徒14・18の回答と教職員の回答を比較すると、生徒の学校生活に関する行動の規準と教職員の規準には大きな開きがあることが分かる
- ⑥生徒20・21より企業の協力や地域の協力に関しては生徒・保護者・教職員の評価が一致しており企業での実習や地域協働に取り組む意識が学校全体で共有されていることがうかがえる

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立白河総合支援学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力(働く力の向上と言語活動の充実)
2. 豊かな心の育成(文化的な教科・活動の充実と支え合う仲間作り)
3. 健やかな体の育成(仕事をやり遂げる体力の充実と安全意識の向上)
4. 独自の取組(学びの環境をデザインする)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成27年10月14日	評価日	平成27年10月19日
					評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
1 確かな学力	職場実習から専門・教科学習への課題のフィードバック	振返りや気づきを基にして教科や専門教科につなげる	・「わかった」「できた」といった喜びを感じているか ・キャリアデザインの表の確認	・「そう思う」「大体そう思う」が職場実習で70%、専門教科で72%、教科で59%	⇒	・キャリアデザイン表を活用した取り組みができる ・教科や専門教科での課題達成に関する評価が生徒に伝わっていない場合がある ・オープンキャンパスは前期に8回実施 ・地域協働活動への参加回数	・職場実習、専門授業、教科授業、各指導者の連携を密にして、評価と課題を生徒に正確に説明する ・案内や説明の記録を作りその記録から生徒が自己的変容について気付くことができるようにしていく	・実際にキャリアデザイン表に書かれている内容を見てさらに積極的に活用することが望ましいと思った ・人前で話すことは緊張もあり大変だと思うが、オープンキャンパスなどで経験を積み、どこででも自分の考えが発表できるようになってほしい
	自ら考え、表現し、他者に伝える力の育成	・来校者に学校説明のプレゼンテーションや専門教科での説明等を行う ・地域協働活動での説明、宣伝活動、振返りを行う	・オープンキャンパスや学校見学等の参加回数 ・地域協働活動への参加回数	・「そう思う」「大体そう思う」が81% ・「そう思わない」「あまり思わない」が58%、		・企業や地域の方との活動について達成感や満足度が高く感謝の気持ちにつながっている ・自己肯定感を高めることが課題である ・地域協働の回数が増え、地元の小学校、児童館との交流も広がった ・指導者がいなくても自分から地域の方と話ができるようになってきた	・企業や地域の協力による活動の成果を生徒が客観的に気づける振り返りの場を設定する ・生徒に対してプラスの評価を積極的に行う ・地域協働活動の開発と更なる充実を図る	・自己肯定感に関する項目での自己評価が低いことにショックを受けた ・自己肯定感については授業や活動の場で自分がどれだけ大切な働きをしているかがうまく生徒に伝わっていないのではないか ・保護者として評価しているつもりがうまく本人に伝わっていないのかもしれない ・岡崎社会福祉協議会でも「いどばたサロン」の活動などを通して、生徒にやってよかったと思ってもらえる協働活動を展開したい
2 豊かな心	・企業や地域との協働活動を通じた豊かな心の活動 ・自己肯定感の向上	・職場実習 ・高齢者体操教室、配食ボランティア、交流農園での協働活動	・企業や地域の協力に感謝の気持ちを持っているか ・自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている	・「そう思う」「大体そう思う」が74%	⇒	⇒	⇒	⇒
	協働活動を通じた豊かな心の育成	・地域協働活動を通してコミュニケーションの充実を図る	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝食をとることや清潔にすることの呼びかけ	・朝ご飯を食べている ・清潔を心がけている	・「そう思う」「大体そう思う」が朝食65%、清潔90%	⇒	・朝食を食べていない生徒が割合が35%と高く、課題である ・清潔に関して、もう少し指導や支援が必要だと考える教職員の割合が30%となっている ・一日の作業を続けられる体力がついてきている	・就労生活に向けて、自分で食生活を整えられるような指導を計画的に進める ・衛生に関する指導と支援を継続して行う ・体力の向上を目指した取組を継続して行う	・社会に出てからも、朝食をとり身、だしなみを整え清潔にすることは大切なことなので今後も習慣化していくことが大切である ・実際に社会に出て就労してから仕事を続けるために体力は必要なので頑張ってほしい
	就労に向けた基礎体力の向上	専門教科と体育における体力の向上を目指した学習内容の設定	・専門教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある ・教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	・専門教科では「そう思う」「大体そう思う」が72% ・教科では「そう思う」「大体そう思う」が60%		⇒	⇒	⇒
4 独自の取組	学びの環境の多様化	職業学科3校のリソース(教育資源)の活用	職業学科3校のリソース(教育資源)の活用の回数	・本校での授業は延べ5回、他校での授業は延べ2回	⇒	・他の学校での多様な学習と他校生の学習姿勢に触発され、自分で振り返り次の目標を設定できた	・取組について何のために何をするかについての教師間の情報共有を確実にする ・学校の様子だけでなく行事や施設利用の案内などこまめに更新する	・なじみのない場所で普段と違うことを体験することで活動の幅を広げることができるので、今後も継続して取り組んでほしい ・ホームページに学校予定を確実に載せてほしい
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページの掲載数	学校の様子等を本校・分校合わせて81回掲載した(10/9まで)		⇒	⇒	⇒